

# 九州大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kyushu University Museum

第1号

2000-2003年度

2004年3月

九州大学総合研究博物館  
The Kyushu University Museum

# 九州大学総合研究博物館年報

## 目次

I.	博物館設置から2003年度までの歩み	1 頁
II.	組織	2 頁
III.	事業	5 頁
	1. 展示	5 頁
	2. 教育	12 頁
	3. 研究	15 頁
	4. 学術標本	16 頁
	5. 情報発信	17 頁
	6. 新聞等による報道	20 頁
IV.	教官の研究活動	24 頁
V.	規則	39 頁

## I. 博物館設置から2003年度までの歩み

九州大学総合研究博物館は2000年4月に発足しました。館長（兼任）と7名の専任教官によりスタートした博物館ですが、この4年間で、組織の充実をはかり、公開展示など様々な活動を続けてきました。九州大学の移転計画に伴う事情から、現在、博物館は箱崎キャンパスのいくつかの建物に分散、仮住まいしており、公開展示は記念講堂の一部や図書館、学外の施設で行ってきました。しかし、杉岡前総長や梶山現総長はじめ多くの方々のご尽力により、博物館の基本的な活動を立ち上げることができました。

博物館組織としては、2000年度に70余名の学内兼任教官による資料部を新たに発足させ、700万点におよぶ九州大学の学術標本・資料の整理やデータベース化に協力して頂ける体制が整いました。また、2001年度には農学部附属演習林・理学部附属天草臨海実験所・理学部附属雲仙地震火山観測研究センターのご協力によりフィールドミュージアム部を立ち上げました。さらに、退官教官や学外の研究者による支援組織として協力研究員制度を発足させました。2002年度には、新キャンパスにおける大学博物館建設に向けて、学内外の有識者による「新しい大学博物館を考える会」が発足し、当博物館と福岡市周辺の博物館との連携のあり方や社会教育・初等中等教育における大学博物館の役割に対する提言をまとめて頂きました。

研究組織としては、2002年4月より研究部に植物分野の助手を採用し、より広範囲の学術標本

に対応できるようになりました。また、2001年度から九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）の助成を受け、アジア・太平洋地域の博物館ネットワークづくり、人材交流や共同研究の拠点形成のための活動を行ってきました。

教育の分野では、2001年度から学芸員資格取得コースにおいて、自然史系の学生向けの講義を博物館専任教官により開講し、文化史系の講義も一部を担当しています。また、2002年度からは、博物館相当施設の認定により、博物館実習を学内で実施することが可能になりました。

社会教育の点では、博物館発足以来4回の公開展示、5回の特別展示を行うと共に、福岡空港・医学部附属病院新病棟・前原市伊都文化会館でのサテライト展示や、農学分野による3回の公開卒論発表会などを行い、九州大学の研究成果を広く一般の方々に公開してきました。また、国際シンポジウム・公開講座・公開講演会等を実施し、より専門的な知識の提供を行ってきました。

今後も、学内標本・資料の一元化を進める事で学内外からアクセスしやすい環境を整えると共に、研究成果の展示公開など博物館活動を通じて学外の人々との交流を深めるよう努めてゆきたいと考えております。

（総合研究博物館館長 湯川淳一）

## II. 組織

総合研究博物館の組織は館長のもと研究部、資料部、フィールドミュージアム部、事務部から構成されています。さらに、運営の諮問機関として、運営委員会があります。また、2002年度には専門委員会として「新しい大学博物館を考える会」が組織されました。

### 館長

2000年4月-2002年3月 湯川淳一（農学研究院）

2002年4月-2004年3月 同上

### 運営委員会委員

(2000-2001年度)

湯川淳一(総合研究博物館館長・委員長)、柴田洋三郎(副学長・副委員長)、有川節夫(附属図書館長)、佐伯弘次(人文科学研究院)、篤 洪(比較社会文化研究院)、福田晴虔(人間環境学研究院)、熊野直樹(法学研究院)、荻野喜弘(経済学研究院)、廣田 稔(言語文化研究院)、島田允堯(理学研究院)、山田光太郎(数理学研究院)、古野純典(医学研究院)、名方俊介(歯学研究院)、正山征洋(薬学研究院)、井澤英二(工学研究院)、金子邦彦(システム情報科学研究院)、武部博倫(総合理工学研究院；2000年度)、佐々木一成(総合理工学研究院；2001年度)、中園明信(農学研究院)、奥田篤行(生体防御医学研究所)、柏木 正(応用力学研究所)、藤井丕夫(機能物質科学研究所)、岩永省三、松隈明彦、中牟田義博、中西哲也、宮崎克典(総合研究博物館)

(2002-2003年度)

湯川淳一(総合研究博物館館長、委員長)、中野仁雄(副学長、副委員長)、有川節夫(附属図書館長)、松尾文碩(情報基盤センター長)、佐伯弘次(人文科学研究院)、田中良之(比較社会文化研究院)、山野善郎(人間環境学研究院)、植田信廣(法学研究院)、藤井美男(経済学研究院)、廣田 稔(言語文化研究院；2002年度)、谷口秀子(言語文化研究院；2003年度)、島田允堯(理学研究院)、木村正人(数理学研究院)、古野純典(医学研究院)、名方俊介(歯学研究院)、正山征洋(薬学研究院)、内野健一(工学研究院)、金子邦彦(システム情報科学研究院)、佐々木一成(総合理工学研究院)、中園明信(農学研究院)、坂本博康(芸術工学研究院；2003年度)、畠山鎮次(生体防御医学研究所)、柏木 正(応用力学研究所)、藤井丕夫(機能物質科学研究所；2002年度)、濱地 格(先導物質化学研究所；2003年度)、浦辺洋太郎(理学部等事務部；2002年度)、大森禮次郎(理学部等事務部；2003年度)、岩永省三、松隈明彦、中牟田義博、中西哲也、宮崎克典(総合研究博物館)

### 研究部 (2000-2003年度)

一次資料研究系 : 教授 岩永省三(2000年11月着任)、助教授 中牟田義博、助手 楠本美智子

分析技術開発系 : 教授 松隈明彦、助教授 中西哲也

開示研究系 : 助教授 宮崎克典、助手 小島弘昭(2000年11月着任)、助手 三島美佐子(2002年4月着任)

資料部（2000-2003年度）

[自然史部門]

動物・医動物分野：姫野國祐(医)、毛利孝之(農)、古賀正崇(医)、飯田弘(農)、金子たかね(農)

植物分野：矢原 徹一(理)、井上 晋(農)、安井 秀(農)、川口栄男(農)、三島美佐子(博)

昆虫分野：寫 洪(比文)、高木正見(農)、湯川淳一(農)、矢田 脩(比文)、荒谷邦雄(比文)、多田内 修(農)、上野高敏(農)、緒方一夫(熱農)、紙谷聡志(農)、津田みどり(農)、小島弘昭(博)

水生生物分野：松井誠一(農)、川口栄男(農)、野島 哲(理)、森 敬介(理)、望岡典隆(農)

地史古生物分野：酒井治孝(比文)、佐野弘好(理)、高橋孝三(理)、松隈明彦(博)、西口弘嗣(比文)、鹿島 薫(理)、下山正一(理)、坂井 卓(理)

岩石分野：柳 哮(理)、石田清隆(比文)、池田 剛(理)、中牟田義博(博)、宮本知治(理)、三木 孝(理)

鉱物分野：島田允堯(理)、青木義和(理)、石田清隆(比文)、石橋純一郎(理)、中村智樹(理)、中牟田義博(博)、桑原義博(比文)、上原誠一郎(理)、本村慶信(理)

人類先史分野：田中良之(比文)、中橋孝博(比文)、鈴木 陽(歯)

有機化石分野：村江達士(理)、山内敬明(理)、北島富美雄(理)

地球電磁気分野：湯元清文(理)

生薬分野：田中宏幸(薬)

[文化史部門]

考古分野：岩永省三(博)、溝口孝司(比文)、宮本一夫(人文)

記録史料分野：安藤 保(人文)、服部英雄(比文)、有馬 学(比文)、吉田昌彦(比文)、植田信廣(法)、西村重雄(法)、田北廣道(経)、荻野喜弘(経)、東定宣昌(石炭)、佐伯弘次(人文)、中野 等(比文)、高野信治(比文)、熊野直樹(法)、宮崎克則(博)、楠本美智子(博)

建築史分野：山野善郎(人環)

[技術史部門]

資源・素材分野：福島久哲(工)、渡邊公一郎(工)、中西哲也(博)

※名簿中下線は2003年度分野主任を、かつこ内は所属を表します。所属の省略は以下となります。

人文：人文科学研究院、比文：比較社会文化研究院、法：法学研究院、経：経済学研究院、理：理学研究院、医：医学研究院、歯：歯学研究院、薬：薬学研究院、工：工学研究院、農：農学研究院、人環：人間環境学研究院、熱農：熱帯農学研究センター、石炭：石炭研究資料センター、博：総合研究博物館

フィールドミュージアム部

陸生生物：大賀祥治(農・演習林)、薛 孝夫(農・演習林)、大槻恭一(農・演習林)

水生生物：野島 哲(理学部)、森 敬介(理学部)

博物館教官：館長および専任教官

## 事務部

専門職員：城戸義典、事務補佐員：野口亜希子、落合香織（2003年度-）

研究支援推進員：杉本 健（2000-2002年度）、福原美恵子（2003年度-）

## 協力研究員

相原安津夫（九州大学名誉教授）、井澤英二（九州大学名誉教授）、平嶋義宏（九州大学名誉教授）、森本桂（九州大学名誉教授）、三枝豊平（九州大学名誉教授）、木船悌嗣（福岡大学教授）

## 新しい大学博物館を考える会（2002年度、専門委員会）

委員長 島田允堯（理学研究院教授、九州大学総合研究博物館運営委員）

副委員長 中津留憲二（福岡市立少年科学文化会館館長）

委員 松石美栄（福岡県企画振興部企画調整課長）、松井愛人（福岡市総務局企画調整部長）

福島信寛（前原市総務部長）、長友泰明（九州国立博物館設置促進財団募金活動推進本部副本部長）、有川節夫（九州大学副学長、九州大学総合研究博物館運営委員）、田中良之（比較社会文化研究院教授、九州大学総合研究博物館運営委員）、湯川淳一（九州大学総合研究博物館館長）、松隈明彦（九州大学総合研究博物館分析技術開発系教授）、岩永省三（九州大学総合研究博物館一次資料研究系教授）

## 九州大学総合研究博物館への提言（平成15年4月1日）

九州大学総合研究博物館館長 湯川 淳 一 殿  
専門委員会「新しい大学博物館を考える会」委員長 島田 允 堯

本専門委員会は、九州大学の国立大学法人化、元岡地区への移転後の九州大学総合研究博物館（以下大学博物館という）のあり方について以下の提言を行う。

### 1. 九州大学の進むべき方向と大学博物館のあり方について

九州大学は、新キャンパスにおいて、「国際的・先端的研究・教育拠点の形成」と「自立的に変革し、活力を維持し続ける社会に開かれた大学の構築」を目指している。これら理念の遂行のために、九州大学は、地域に開かれた大学の窓の役割を果たす、十分な規模と機能を持った大学博物館を新キャンパスに作り、学術研究の成果を地域に還元し、地域の教育環境の向上に貢献することが望まれる。

### 2. 大学博物館の現状と進むべき方向について

(1) 大学博物館は、7名の専任教員及び70名を超える兼任の研究・教育の専門家に支えられ、8大学博物館中最大の専門性の高い学術標本を所蔵している。大学博物館は、学術標本の収蔵・保存・展示・公開を通じた社会教育の支援に止まらず、様々な形で地域社会への貢献を果たしうる資源を有する。しかしながら、運営面では、運営経費や専任職員の確保が課題とされており、施設面でも、現在大学内の各所に保存されている大量の学術標本等を収蔵するためのスペースの確保などの課題を抱えている。

(2) 従って、大学博物館は、その強みである研究・教育と標本資料の公開展示、研究成果等の学内外への情報発信に重点を置きながら、大学博物館の特色を生かした、魅力ある博物館作りを目指すべきである。

(3) 大学博物館には、日本最大の昆虫標本やアンモナイト標本など自然史標本を中心とした極めて大量の学術標本が収蔵されている。一方、福岡市及びその周辺には、九州国立博物館、福岡市博物館を初めとして多くの歴史・民俗系の博物館があるが、自然史系の博物館は極めて少ない。大学博物館は、既存の博物館、大学研究室等とのネットワークの形成を図り、機能分担や事業実施における協力等について検討して、地域社会との密接な連携を進める中で、将来のあり方を検討すべきである。

### 3. 地域貢献について

大学博物館は、地域に開かれた博物館として、児童・生徒の理科離れ対策、「総合的な学習の時間」への協力、生涯学習の場の提供など地方公共団体の施策との連携を通じて、社会教育・学校外教育等で地域に貢献すべきである。

### 4. 社会連携について

(1) 大学博物館は社会教育、学校教育との連携を強化するため、専任職員では担当しきれない社会教育、初等・中等教育に関わる体制の充実方策、職員の相互交流などについて地方公共団体と連携を図りながら検討すべきである。

(2) 新キャンパスでの大学博物館作りに当たっては、今後とも地域社会、行政、産業界、他博物館等の支援と助言を得る体制を作ることが必要である。

### III. 事業

総合研究博物館は、九州大学に散在する貴重な標本・資料を大学内における教育・研究に活用して行くことを目的として設置されました。また、九州大学が市民に開かれた大学としての責任を果たすための一つの窓口として、大学内で行われている教育・研究の成果を一般に広く公開する事が大きな役割であると認識しています。これらの目的を実現するための事業として、総合研究博物館では、これまでに展示、教育、研究、標本の収集・整理、情報発信等の活動を行ってきました。

#### 1. 展示

これまでに総合研究博物館が行ってきた展示として、先行展示、公開展示、特別展示、学内展示、サテライト展示などがあります。

##### 1-1. 先行展示

先行展示は、九州大学に大学博物館を設置するための、ユニバーシティ・ミュージアム構想の一環として九州大学により1997年～1999年に3回行われました。第1回「倭人の形成」では、九州大学比較社会文化研究院が中心となり、九州大学が所蔵する縄文・弥生時代の古人骨の形質変化に関する研究を一般に公開しました。第2回「雲仙普賢岳の噴火とその背景」では、理学研究院により1990年に噴火した雲仙普賢岳の火山活動についての研究が紹介されました。第3回「九州大学・医学の歩み-寄生虫学の展開と医の文化」では医学部寄生虫学研究室により、九州大学における寄生虫学の研究が医学史上果たしてきた役割が紹介されました。



##### 1-2. 公開展示

公開展示は、総合研究博物館が主体となり、九州大学で行われてきた研究を広く一般に公開する目的で年に1回学外の施設を利用しておこなってきたものです。

第1回公開展示

「森・水・人」-「学術の森」による森林生態圏科学の展開-

期間：2000年5月16日(水)～6月4日(日)

会場：福岡市博物館特別展示室B

主催：九州大学・福岡市博物館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

協力部局：農学部附属演習林

入場者数：12,007名



第2回公開展示

「石炭・金・地熱」-九州の地下資源-

期間：2001年12月18日(火)～2002年1月27日(日)

会場：福岡市博物館特別展示室B

主催：九州大学・福岡市博物館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

協力部局：工学研究院地球資源システム工学部門

入場者数：4,793名



第3回公開展示

「植物をもっと知ろう」-植物と人-

期間：2002年8月16日(金)～9月8日(日)

会場：福岡市立少年科学文化会館

主催：九州大学総合研究博物館・福岡市立少年科学文化会館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

協力部局：理学研究院・薬学研究院・農学研究院・熱帯農学研究センター・生物環境調節センター・遺伝子資源研究センター・総合研究博物館植物研究グループ

同時開催「植物標本作製入門講座/植物・昆虫同定会」

入場者数：5,163名



第4回公開展示

「川と海の生命展」-川と海めぐみと私たち-

期間：2003年8月16日(土)～9月7日(日)

会場：福岡市立少年科学文化会館1階学習室

主催：九州大学総合研究博物館・福岡市立少年科学文化会館

後援：福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

協力部局：九州大学農学部動物生産科学コース水産学分野

入場者数：10,771名



### 1-3. 特別展示

特別展示では、九州大学50周年記念講堂の展示スペースを利用してパネル展示を主体とした展示を行い、学内の各分野の研究を学内外に公開してきました。また2002年度からは、九州大学P&P専門委員会との共催でP&P（九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト）研究に採択された課題の研究成果の一般公開を行ってきました。

#### 第1回特別展示

「進化の舞台の主役と脇役 地球上で繁栄する多様な昆虫たち、人とのかかわり」

期間：2001年3月19日（月）～5月18日（金）

会場：九州大学50周年記念講堂

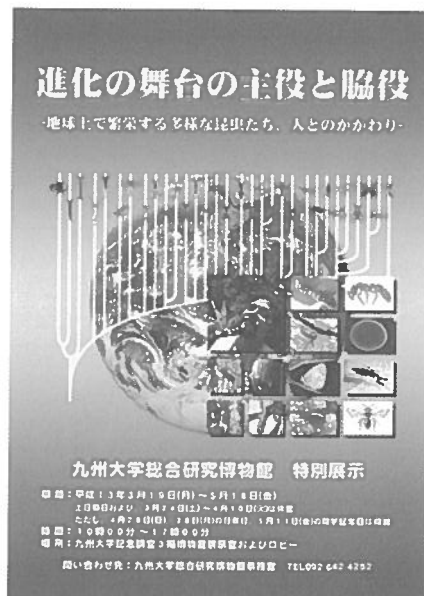
協力部局：農学研究院（昆虫学、天敵昆虫学、生物保護管理学分野、遺伝子資源開発研究センター）、熱帯農学研究センター、比較社会文化研究院、理学研究院（生態科学講座）、九州大学医学研究院（寄生虫学講座）

展示内容：地球上での多様性/温暖化による北上/クワガタの系統進化/社会性昆虫/害虫と天敵の個体群動態/衛生害虫/生物的防除/ミツバチ/カイコ ほか

同時開催「九州大学所蔵学術標本展示」

展示内容：化石・地質学標本/熱帯植物標本/福岡県植物標本/古人骨資料/古文書史料/工学部列品室/考古学資料/高壮吉鉱物標本/松本標本（化石） ほか

入場者数：1,450名



#### 第2回特別展示

「地球惑星科学への招待 -地球の過去・現在・未来を見つめて-」

期間：2001年 7月16日（月）～9月14日（金）

会場：九州大学50周年記念講堂

協力部局：理学研究院地球惑星科学部門、比較社会文化研究院環境変動部門地球変動分野、工学研究院地球資源システム工学部門応用地質学分野、応用力学研究所基礎力学部門地球流体力学分野

展示内容：地球の起源/地殻変動/ヒマラヤの成り立ちと気候、成層圏への影響/地球流体、オゾンホール、エルニーニョ、気候変動/宇宙天気、太陽と地球の相互作用/地球史とテクトニクス/生命の起源と進化・絶滅/鉱床・鉱脈の形成 ほか

入場者数：2,142名



第3回特別展示

「九州大学教育・研究の最前線」

期間：2002年5月8日(水)～6月7日(金)

会場：九州大学50周年記念講堂

共催：九州大学総合研究博物館・九州大学P&P専門委員会

展示内容：/細胞は小さな独立国/星での核融合/がんが増大するときの「血管新生」/キノコが化学兵器を分解した!/?/電子顕微鏡とは?/生体を守るシステム/ほか

同時開催「九州大学所蔵標本・資料展」

展示内容：考古学資料、炭坑関係資料、貝類標本、昆虫標本、植物標本、学外寄贈標本等  
入場者数：684名



第4回特別展示

「九州大学教育・研究の最前線」

期間：2003年5月8日(木)～6月6日(金)

会場：九州大学50周年記念講堂

共催：九州大学総合研究博物館・九州大学P&P専門委員会

展示内容：「何となく大学へ」から「よく知って大学へ」/全学教育理系コア教養科目及び基礎科学科目の教育改善をめざした研究/自律型サッカーロボットシステムの開発/学術研究都市の空間情報基盤づくりをめざす各種GIS関連プロジェクトの連携と高度利用体制の構築/韓国の産業と経営に関する総合的研究/崔致遠撰『桂苑筆耕集』に関する総合的研究/末梢抵抗血管における新型電位依存生Ca<sup>2+</sup>チャネルの分子薬理学的研究/遺伝子操作マウスを作って疾患に取り組む/アジアの石炭問題と日本の石炭産業に関する総合的検討

同時開催「九州大学所蔵標本・資料展」

展示内容：考古学資料、炭坑関係資料、貝類標本、昆虫標本、植物標本、学外寄贈標本等  
入場者数：776名



第5回特別展示

九州大学・九州芸術工科大学統合記念展示

「あれも、これも、芸術工学!？」展 2003

期間：2003年10月15日(火)～11月15日(金)

会場：九州大学50周年記念講堂

共催：九州大学総合研究博物館・大学院芸術工学研究院

展示内容：35年のあゆみと現在/100人の芸術工学屋さん/あれも、これも、芸術工学/百花繚乱の芸術工学」など  
入場者数：828名



#### 1-4. 学内展示

学内展示では、公開展示等の学外で行った展示について、ダイジェスト版をパネル展示で行い、学内公開してきました。

「先行展示ダイジェスト展示 九州大学の研究 過去・現在・未来」

期間：2000年5月11日(木)

会場：九州大学50周年記念講堂

展示内容：博物館先行展示（第1回：倭人の形成，第2回：雲仙普賢岳の噴火とその背景，第3回：寄生虫学の展開と食の文化）および2001年度に行った公開展示（森・人・水）のダイジェスト展示。

「石炭・金・地熱 -九州の地下資源-」

期間：2001年10月15日(月)～11月15日(木)

会場：九州大学50周年記念講堂

展示内容：福岡市博物館での展示に先立ち、パネル展示を行いました。

「九州大学所蔵標本・資料展」

期間：2002年10月15日(火)～11月15日(金)

会場：九州大学50周年記念講堂

展示内容：貝類、考古資料、炭坑関係史料、古人骨、昆虫・植物の標本・資料

同時開催「植物をもっと知ろう -植物と人-」

展示内容：ダイジェスト版(パネル展示のみ)。学生実習で作成された植物標本を用いて、九州大学移転先の福岡市元岡地区の植物を紹介。

「川と海の生命展」-川と海のめぐみと私たち-

期間：2003年11月4日(火)～12月19日(金)

会場：九州大学附属中央図書館3階ラウンジ

展示内容：少年科学文化会館で行った公開展示のパネル展示。

#### 1-5. 教育・研究協力

総合研究博物館では学内各部局の教育・研究活動を支援するために、シンポジウムや卒業論文発表会、展示会を共催したり、後援しています。

International Symposium on Gold and Hydrothermal Systems

期間：2001年11月4日(日)

会場：九州大学50周年記念講堂大会議室および小会議室

主催：資源地質学会

共催：九州大学工学研究院地球資源システム工学部門 後援：九州大学総合研究博物館

九州大学農学部農学分野公開卒業論文発表会

期間：2002年2月23日(土)～24日(日)

会場：九州大学50周年記念講堂

発表形式：ポスター発表

説明者：卒業論文発表者

発表担当：植物育種学研究室/作物学研究室/園芸学研究室/植物生産生理学研究室/植物病理学研究室/昆虫学研究室/蚕学研究室

九州大学農学部農学分野公開卒業論文発表会

期間：2003年2月22日(土)～23日(日)

会場：九州大学50周年記念講堂

発表形式：ポスター発表

説明者：卒業論文発表者

発表担当：植物育種学研究室/作物学研究室/園芸学研究室/植物生産生理学研究室/植物病理学研究室/昆虫学研究室/蚕学研究室

「韓国研究センターの5年間の歩み」

韓国国際交流財団による5年間の研究助成成果特別展示

期間：2003年11月25日(火)～12月12日(金)

会場：九州大学50周年記念講堂

主催：九州大学韓国研究センター

共催：九州大学アジア総合研究センター・総合研究博物館

九州大学農学部農学分野公開卒業論文発表会

期間：2004年2月14日(土)～15日(日)

会場：九州大学50周年記念講堂

発表形式：ポスター発表

説明者：卒業論文発表者

発表担当：植物育種学研究室/作物学研究室/園芸学研究室/植物生産生理学研究室/植物病理学研究室/昆虫学研究室/蚕学研究室

九州大学農学部農学分野  
公開卒業論文発表会

日時：2月23日(土) 13時～16時  
2月24日(日) 10時～15時

場所：九州大学50周年記念講堂  
(福岡市東区箱崎6-10-1)

発表形式：ポスター発表

発表担当：植物育種学  
作物学  
植物生産生理学  
園芸学  
植物病理学  
蚕学  
昆虫学

説明者：卒業論文発表者

育種  
作物  
生産生理  
園芸  
病理  
蚕  
昆虫

九州大学農学部農学分野 / 九州大学総合研究博物館

韓国国際交流財団による5年間の研究助成成果特別展示

韓国研究センターの5年間の歩み

期間：平成15年11月25日(火)～12月12日(金)

時間：12:00～17:00

土・日休館

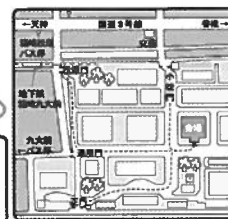
会場：創立50周年記念講堂

入場無料

九州大学韓国研究センターにおける韓国研究と日韓学術交流の成果を紹介

主催：九州大学韓国研究センター

共催：九州大学アジア総合研究センター、九州大学総合研究博物館



#### 1-6. サテライト展示

九州大学総合研究博物館では、福岡空港ビルディング(株)の協力により、平成14年10月1日から福岡空港で国内地方線が発着する第1ターミナル2階待合室および乗降客通路に、サテライトミュージアムを開設しました。「福岡空港サテライト展示」では、とくに、地域に密着した話題を中心に取り上げてきました。また2003年10月より九州大学付属病院新病棟2階通路に、2004年1月より前原市伊都文化会館にサテライト展示を開設しました。

##### 福岡空港サテライト展示（福岡空港第一ターミナル2階）

2001年10月～11月

福岡県の希少野生生物（1）昆虫類（福岡県レッドデータブック2001）

2002年12月～2003年1月

福岡県の希少野生生物（2）貝類（福岡県レッドデータブック2001）

2003年2月～3月

福岡県の希少野生生物（3）植物類（福岡県レッドデータブック2001）

2003年4月～5月

福岡県の希少野生生物（4）昆虫類その2（蝶類）（福岡県レッドデータブック2001）

2003年6月～7月

福岡県の希少野生生物（5）魚類（福岡県  
レッドデータブック2001）

2003年8月～11月

九州の地下資源（1）金

2003年12月～2004年3月

九州の地下資源（2）地熱



##### 九州大学付属病院サテライト展示（2003年10月～2月）

植物をもっと知ろう-植物と人-

##### 前原市伊都文化会館サテライト展示（2004年1月～）

「絶滅の危機に瀕する野生生物たち」（陸・淡水産貝類編）

#### 1-7. 展示貸出

「植物をもっと知ろう -植物と人-」

期間：2003年7月25日(金)～27日(日)

会場：宗像ユリックス

主催：宗像植物友の会、九州大学総合研究博物館、宗像市、宗像市教育委員会

九州大学総合博物館公開展示「植物をもっと知ろう-植物と人-」の展示パネルとDNA模型を貸し出しました。

## 2. 教育

総合研究博物館では、教育への関わりの方として、学芸員資格取得コースの講義の担当をすると共に、各教官の専門分野を活かして、大学内の学部・学府での講義を兼任の教官として担当しています。また、他大学の非常勤講師等も務めています。社会教育に関しては、福岡県高等学校理科部会の研究会や行政と大学が共同で計画した「地域資源再発見塾」等の講師を務め、社会との連携に努力しています。また博物館主催の公開講演会を企画し、多くの一般社会人の参加を得ました。

### 2-1. 大学教育

#### 2-1-1. 学芸員資格関係講義・実習

科目	担当者	開講部局	開講時期	備考
博物館概論	松隈・岩永	理学部	前期	2001年度より
博物館経営論	松隈・岩永	理学部	後期	"
博物館資料論	中牟田	理学部	前期	"
博物館情報論	中西	理学部	前期	"
視聴覚教育メディア論	中西	理学部	後期	"
植物学標本実習	三島・矢原（理学部）	理学部	前期 2003年度は後期	2002年度より
地球惑星科学標本実習	松隈・中牟田・中西	理学部	前期	"
動物学標本実習	湯川・毛利（農学部） 中園（農学部）	農学部	前期	"
博物館実習	湯川	農学部	前期	学外施設における実習
博物館資料論	宮崎	文学部	前期	2001年度
博物館資料論	岩永	文学部	前期	2002年度より
博物館学実習I	宮崎	文学部	前期	2000年度より
博物館学実習II	宮崎	文学部	後期	"

#### 2-1-2. 学部教育

科目	担当者	開講部局	開講時期
地球惑星生物学	松隈	理学部	3年前期
地球惑星生物学実験I	松隈（分担）	理学部	2年後期
地球惑星生物学実験II	松隈（分担）	理学部	3年前期
地球惑星科学実習I	松隈（分担）	理学部	3年前期
地球の構成と環境	松隈（分担）	全学共通	1年後期
地球惑星科学特別研究	松隈	理学部	通年
考古学講義XIV	岩永	文学部	後期
結晶物理化学	中牟田	理学部	後期
地球惑星化学実験I	中牟田（分担）	理学部	2年後期
地球惑星化学実験II	中牟田（分担）	理学部	3年前期
地球惑星科学特別研究	中牟田	理学部	通年
農学実験第一	小島	農学部	2年後期
農学実験第二	小島	農学部	3年前期
農学実験第三	小島	農学部	3年後期
農学実験第四	小島	農学部	通年

2-1-3. 大学院教育

科目	担当者	開講部局	開講時期
生物圏進化学	松隈	理学府	前期
地球史生物史	松隈 (分担)	理学府	後期
地球惑星科学特別研究I	松隈	理学府	通年
地球惑星科学特別研究II	松隈	理学府	通年
階級社会形成論I・III	岩永	比較社会文化学府	前期
階級社会形成論II・IV	岩永	比較社会文化学府	後期
鉱物解析学	中牟田	理学府	前期
物質科学演習	中牟田 (分担)	理学府	前期
地球惑星科学特別研究I	中牟田	理学府	通年
地球惑星科学特別研究II	中牟田	理学府	通年
近世総合演習	宮崎	比較社会文化学府	通年
鉱物工学実験	中西	工学府	前期・後期
地球資源システム工学特論第一	中西 (分担)	工学府	後期
昆虫学演習	小島	農学府	通年
農学特別研究	小島	農学府	通年

2-1-4. 非常勤講師

中牟田 神戸大学大学院自然科学研究科 2000年4月1日～9月30日

宮崎 西南学院大学 日本史 (毎週金曜日) 1998年4月1日～

2-2. 社会教育

2-2-1. 公開講演会

第1回公開講演会

インターネット博物館「雲仙普賢岳の噴火とその背景」

入館者10万人突破記念講演会

日時：2002年12月20日(金) 午後3時～5時

会場：九州大学理学部大会議室

主催：九州大学大学院理学研究院・九州大学総合研究博物館

講演内容：

「講演会の開催に当たって」小田垣孝(九州大学理学研究院長)

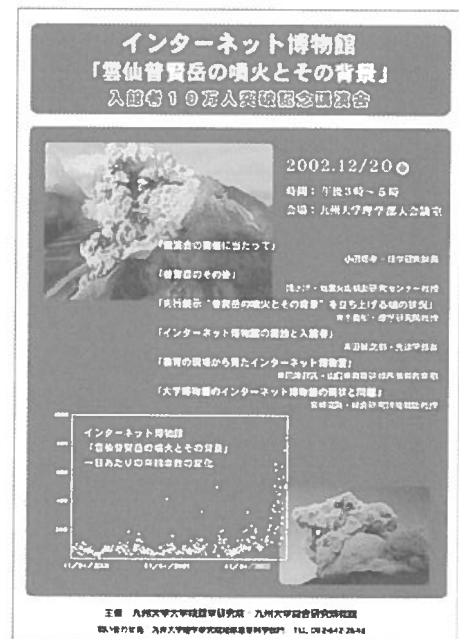
「普賢岳のその後」清水 洋(九州大学地震火山観測研究センター教授)

「先行展示“普賢岳の噴火とその背景”を立ち上げる頃の状況」  
青木義和(九州大学理学研究院教授)

「インターネット博物館の開設と入館者」高田健次郎(九州大学元理学部長)

「教育の現場から見たインターネット博物館」岸田隆政(山口県教育研修所情報教育部)

「大学博物館のインターネット博物館の現状と問題」宮崎克則(九州大学総合研究博物館助教授)



第2回公開講演会

「考古科学の最前線」

日時：2003年2月22日(土) 午後2時～5時

会場：九州大学50周年記念講堂4階大会議室

演題、講演者：

「古代ガラスの考古科学-平原遺跡出土品を中心に-」 肥塚隆保(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)

「金ピカの技術-金めっきと小判の色揚げ-」 斎藤 努(国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授)

「木材・漆・布の保存科学」 高妻洋成(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター主任研究官) 参加者：約80名

九州大学総合研究博物館 公開講演会  
**考古科学の最前線**  
 「古代ガラスの考古科学-弥生時代の遺物を中心に-」  
 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 肥塚隆保  
 「金ピカの技術-金めっきと小判の色揚げ-」  
 国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 助教授 斎藤 努  
 「木材・漆・布の保存科学」  
 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 主任研究官 高妻洋成

会場：九州大学50周年記念講堂 4階大会議室  
 日時：2003年2月22日(土) 午後2時～5時  
 入場無料

お問い合わせ：九州大学総合研究博物館事務局 TEL. 092-642-4252  
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/>

第3回公開講演会

「地球外物質に太陽系の起源を求めて」

日時：2004年2月14日(土) 午後2時～5時30分

会場：九州大学50周年記念講堂

主催：九州大学総合研究博物館

協力：「地球外物質と生命の起源を含めた太陽系形成に関する研究」 P&P研究グループ(代表 村江達士)

演題、講演者：

「地球外物質からわかる太陽系の歴史」 中村智樹(九州大学助教授)

「南極に隕石を求めて」 今栄直也(国立極地研究所)

「はやぶさ」探査機による小惑星サンプルリターン計画 藤原 顕(宇宙科学研究本部)

「太陽系の歴史を刻む時計」 寺田健太郎(広島大学助手)

「地球外物質に見る生命の起源」 村江達士(九州大学教授)

同時展示：「はやぶさ」探査機の模型、南極で採取された火星隕石

九州大学総合研究博物館 公開講演会  
**地球外物質に太陽系の起源を求めて**

講演内容  
 地球外物質からわかる太陽系の歴史  
 中村智樹 九州大学助教授  
 南極に隕石を求めて  
 今栄直也 国立極地研究所  
 「はやぶさ」探査機による小惑星サンプルリターン計画  
 藤原 顕 宇宙科学研究本部  
 太陽系の歴史を刻む時計  
 寺田健太郎 広島大学助手  
 地球外物質に見る生命の起源  
 村江達士 九州大学教授

日時：2004年2月14日(土曜日) 14:00～17:30  
 会場 九州大学50周年記念講堂(箱崎キャンパス)  
 主催 九州大学総合研究博物館 協力 「地球外物質と生命の起源を含めた太陽系形成に関する研究」 P&P研究グループ(代表 村江達士) 入場無料  
 問合せ先 九州大学総合研究博物館事務局  
 TEL. 092-642-4252 <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/>

参加者：約200名

2-2-2. 地域資源再発見塾(九大糸島会/総合研究博物館事業)

地域のための大学博物館講座

日時：2004年3月27日(土)～28日(日)

1日目「地域のための大学博物館学講座」

会場：前原市伊都文化会館

主催：九大糸島会、九州大学総合研究博物館

演題、講演者：

「空を学ぼう-オーロラと宇宙天気-」 湯本清文(九州大学宙空環境研究センター教授)

「陸にすむ貝を探そう」 松隈明彦(九州大学総合研究博物館教授)

「糸島のレッドデータ植物」平野照美(糸島植物研究会)

2日目「植物の不思議発見」

会場：前原中央公民館

「植物観察の基礎」三島美佐子(九州大学総合研究博物館助手)

「植物細密画入門」佐藤 (前原市在住植物画家)

### 3. 研究

#### 3-1. 系の研究

九州大学では、人文・社会科学や自然科学に関する標本や資料を多数収蔵しています。それらの保存管理や学術情報の抽出、展示公開などには、標本の特性に応じ、また九州大学の研究内容に合った独自の方法が要求されます。そのため当博物館では、研究教育支援事業を三つに整理し、それらを円滑に機能させるために、三つの研究系を設けています。

##### ◎一次資料研究系 (Laboratory of Material Sciences)

学術標本の調査・収集、分類・保存及びその理論・方法に関する研究と教育を行います。そして研究成果とそれに基づいて適切に維持・管理された標本を、分析・抽出のための一次資料として分析技術開発系へ提供し、開示研究系へは展示・公開のための学術標本や総合的分類の成果と分類体系を提供します。

##### ◎分析技術開発系 (Laboratory of Analytical Sciences)

学術標本から先端的分析法により新たな学術情報を抽出し、その理論・方法に関する研究と教育を行います。そして分析結果を新たな分類のため一次資料研究系へ提供し、開示研究系へは臨場感あふれる展示・公開のために必要な抽出情報などを提供します。

##### ◎開示研究系 (Laboratory of Information and Multimedia Sciences)

展示・公開のために学術標本の持つ情報のデータベース化と、効果的な展示・公開のための理論・方法の研究と教育を行います。総合的データベースによる標本整備状況を新たな調査・収集計画の策定のために一次資料研究系へ提供し、標本の分析状況など新たな技術開発のための情報を分析技術開発系に提供します。

#### 3-2. 九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト(P&P)研究事業

「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」(2001～2003年度)

研究代表者：松隈明彦(総合研究博物館、総括・古生物学)

分担研究者：岩永省三(総合研究博物館、考古学)、中牟田義博(総合研究博物館、鉱物学)、中西哲也(総合研究博物館、鉱床学)、宮崎克則(総合研究博物館、民衆文化論)、小島弘昭(総合研究博物館、昆虫学)、三島美佐子(総合研究博物館、植物学)、佐野弘好(理学研究院、地質学)、矢原徹一(理学研究院、植物学)、湯川淳一(農学研究院、昆虫学)、毛利孝之(農学研究院、動物学)、鳶 洪(比較社会文化研究院、昆虫学)、田中良之(比較社会文化研究院、考古学)、中橋孝博(比較社会文化研究院、形質人類学)

目的：

- (1) アジアの博物館との交流 (2) 情報の発信・相互利用 (3) 職員のリカレント教育

成果：

- (1) 博物館事情の調査：タイ、マレーシア、インドネシア、韓国  
(2) 交流協定の締結：インドネシア科学院生物学博物館  
(3) 共同研究：マレーシア国立大学(昆虫)、プケット海洋生物学研究所(軟体動物)など  
(4) 情報の発信  
1) 九州大学学術標本データベースの公開  
・ 博物館HP：首藤コレクション(新生代軟体動物化石)、ゾウムシ(昆虫)、高鉍物標本など  
・ 目録の作成：ハエ、脊椎動物など  
2) アジア研究者要覧の作成  
3) 軟体動物分類学関係主要文献所在目録の作成  
(5) 若手研究者の育成  
1) 若手研究者の招聘  
・ Ms V. Vongpanich(プケット海洋生物学研究所、2001、2002年度)  
・ Mr. T. Duangdee(カセツアート大学、2003、2004年度)

#### 4. 学術標本

##### 4-1. 収集

学外の貴重な標本については、逸散を防ぐために資料部の該当分野の協力を得た上で、博物館への寄贈を受けてきました。これまでに5つのコレクションが寄贈されています。

寄贈標本リスト

- 1) 福岡植物研究会コレクション(福岡県に自生する全てのシダ植物、種子植物を網羅した植物標本)  
寄贈者：福岡植物研究会(代表 筒井貞雄) 標本点数：50,000  
受け入れ資料分野：植物(寄贈番号1：2001年6月7日)
- 2) 佐々治コレクション(甲虫類の国内を代表するコレクションで、特にテントウムシ類は国内最大)  
寄贈者：佐々治寛之 標本点数：60,000  
受け入れ資料分野：昆虫(寄贈番号2：2001年8月27日)
- 3) 宮川コレクション(日本およびその周辺地域から採集されたゾウムシ上科甲虫類の昆虫標本)  
寄贈者：宮川百合子 標本点数：35,000  
受け入れ資料分野：昆虫(寄贈番号3：2002年9月19日)
- 4) 木船コレクション(翼手類寄生虫の国内最大コレクション)  
寄贈者：木船悌嗣 標本点数：60,000  
受け入れ資料分野：動物・医動物(寄贈番号4：2003年3月20日)
- 5) 大分県城南地質同好会イノセラムス標本(白亜紀イノセラムスの化石標本)  
寄贈者：野田雅之 標本点数：954  
受け入れ資料分野：地史古生物(寄贈番号5：2003年5月23日)

#### 4-2. 標本調査

##### 九州大学所蔵学術標本調査

総合研究博物館では、九州大学が所蔵する標本についてアンケート調査を行い、各標本の所蔵場所、管理部門、標本数、収蔵面積等の把握を行いました。（表1,2参照）

第1回調査 2000年7月 所蔵場所、管理部門、標本数、収蔵面積等の基礎情報の把握

第2回調査 2001年11月 博物館への収蔵が必要な標本の抽出および標本整理状況の把握

#### 4-3. 標本整理

本学が所蔵する740万点におよぶ学術標本・資料について、2003年度より運営費から標本整理費用を分配し、それぞれ各分野ごとに標本・資料の整理とデータベース化を開始しました。

##### 2003年度配分

自然史分野：鉱物(50)、化石(50)、動物・医動物・昆虫(50)、植物(50)

文化史分野：記録史料(50)、考古資料(25)、人類史資料(25)

技術史分野：資源・素材(50)

カッコ内の数字の単位：万円

#### 5. 情報発信

総合研究博物館では2000年7月10日に博物館ホームページ( <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/> )を立ち上げ、博物館活動の公開を始めました。博物館の基礎情報、公開展示や講演会の案内の他、これまでに終了した展示のインターネットミュージアムとしての公開と共に、学内の学術標本・資料のデータベースを作成し学内外に向けて情報の発信を行ってきました。

##### 5-1. インターネットミュージアム

「倭人の形成」をHP上に公開（2000年9月19日）

「雲仙普賢岳の噴火とその背景」（理学部サーバー）にリンク（2000年9月）

「医学の歩み -寄生虫学の展開と医の文化-」（医学部サーバー）にリンク（2000年9月）

「森・水・人 -「学術の森」による森林生態圏科学の展開-」をHP上に公開（2001年1月）

「進化の舞台の主役と脇役 -地球上で繁栄する多様な昆虫たち、人との関わり-」をHP上に公開（2001年6月6日）

「地球惑星科学への招待 -地球の過去・現在・未来を見つめて-」をHP上に公開（2001年9月14日）

「植物をもっと知ろう」をHP上に公開（2002年12月9日）

「石炭・金・地熱 九州の地下資源」をHP上に公開（2003年5月20日）

「九州大学教育・研究の最前線 -第1回P & P研究成果-」をHP上に公開（2003年6月2日）

「絶滅の危機に瀕する野生生物たち」をHP上に公開（2003年11月7日）

「川と海の生命展 -川と海のめぐみと私たち-」をHP上に公開（2004年2月12日）

表1. 九州大学所蔵標本調査第1回アンケート結果 (その1)

標本・資料等の名称	点数	データベース化等	兼任教員
<b>人文科学研究院</b>			
考古学資料	2,870		
(小計)	2,870		
<b>比較社会文化研究院</b>			
地質学標本	9,381		山縣 毅、酒井 浩孝、石田 清隆、西 弘嗣、桑原 義博
古人骨資料、考古資料	26,967	資料集を刊行	田中 良之、中橋 孝博、溝口 孝司
昆虫標本及び植物標本	994,500		轟 洪、矢田 脩
中世・近世・近代資料	400,000	「九州文化史研究所所蔵古文書目録」として19号まで刊行	有馬 學、吉田 昌彦、服部 英雄、高野 信治、中野 等、安藤 保(文)、西村 重雄(法)、植田 信廣(法)、東定 宣昌(石炭研)、熊野 直樹(法)、田北 廣道(経済)、佐伯 弘次(文)、荻野 喜弘(経済)
(小計)	1,430,848		
<b>人間環境学研究院</b>			
近代建築遺物、近世建築遺物、近世・近代民具	261		福田 晴彦
(小計)	261		
<b>法学研究院</b>			
近世捕物用具類等	36		植田 信廣、熊野 直樹
近世・明治初期古文書類等	10,000		植田 信廣、熊野 直樹
(小計)	10,036		
<b>理学研究院</b>			
植物標本	14,500		矢原 徹一
火山岩標本	250		
九州地域及び雲仙火山の地震データ(震源・波形)	32,000	地震波形については最近4~5ヶ月分、震源データについては1995年6月以降、インターネットで公開中。1995年以降の地震波形データについてはCD-ROM化(オフライン公開)	
雲仙普賢岳噴火関連VHSビデオテープ、8mmビデオテープ、フォトCD	650	VHSビデオテープについてはリスト作成済み、8mmビデオテープについてはラベル添付済み、35mmネガ・ポジフィルムはデジタル化してCD-Rに書き込み中	
アフリカ及びチベット海外学術調査資料	2,500		柳 哮
環太平洋地磁気ネットワークデータ	54(観測点)	1998年までのデータはデータベース化し公開中、1999年以降はデータベース作成中	湯元 清文
昭和30年頃から世界で初めて単離あるいは合成された芳香族カロチノイド	3		
海洋生物標本(魚類、底生生物、海藻類、他)	5,680		森 敬介
地質標本	27,300		佐野 弘好、坂井 卓
岩石標本	23,100		池田 剛、宮本 知治
鉱物標本(高標本、吉村標本を含む)	41,100	高標本について印刷公表済み	青木 義和、上原 誠一郎、中村 智樹
化石標本	85,100	模式標本、海外からの寄贈標本の一部について印刷公表済み	佐野 弘好、高橋 孝三、石橋 毅、下山 正一、鹿島 薫
海底熱水系試料	30		石橋 純一郎
夾炭層標本	22,520		村江 達士、三木 孝、山内 敬明、北島 富美雄
鉱石標本	41,700		島田 允堯、本村 慶信
(小計)	296,541		

表1. 九州大学所蔵標本調査第1回アンケート結果 (その2)

標本・資料等の名称	点数	データベース化等	兼任教員
<b>医学研究院</b>			
人体病理標本(主に脳神経)	100,200		
人体臓器標本	多数		
膀胱・腎結石	6		
法医学、犯罪学、人類遺伝学関係標本	数十点		
寄生虫体及び臓器標本	380		
人体及び動物の解剖模型標本	139		
切除臓器の凍結標本、抽出したDNA、RNA、培養細胞	500	データベース化完了	
(小計)	101,225		
<b>歯学研究院</b>			
日本人及び台湾人一般集団歯列模型	1,450	目録作成済み	鈴木陽
(小計)	1,450		
<b>工学研究院</b>			
資源工学及び材料工学関連標本	5,433	一部、目録とカードを作成済み	井澤英二、渡邊公一郎、福島久哲
日本刀に関する資料及び史料	150		
(小計)	5,583		
<b>システム情報科学研究院</b>			
機械翻訳実験機KT-1	1		
電気器具標本一式	57		
(小計)	58		
<b>農学研究院</b>			
昆虫標本	4,030,000	模式標本については、カードではデータベース化が完了。現在、デジタル情報として入力中、今年末を目標に公開予定。	多田内 修、紙谷 聡志、緒方 一夫(熱帯農学研究センター)
タンガニーカ湖産シクリッド科魚類標本	200	目録作成中	
動物標本	1,373	一般標本について目録作成中	毛利孝之、飯田弘
魚類標本	500		
南洋植物さく葉標本(金平コレクション)	17,048	データベース化を進めており、85%が入力済み。さらに200点のタイプ標本に関して、外観写真を入力予定。	
作標植物標本(中島コレクション)	8,300		
平嶋義宏コレクション(1989年寄贈) ;ボルネオ・バプアニューギニア等の民芸品	31	目録作成済み	
昆虫標本(アリ類)	11,215		緒方 一夫
魚類標本(内田コレクション)	1,450,000		望岡 典隆
海草類さく葉標本(瀬川標本)	10,000		川口 栄男
イネの遺伝子資源(実験系統種子)	5,000	イネの遺伝実験系統データベースのためのデータ整理、リスト作成、画像データ作成が進行中。	安井 秀
植物標本	13,000		
天敵昆虫標本	25,000		高木正見、上野高敏、津田みどり
在来農具	100		
演習林 植物さく葉標本・材鑑標本	3,232	データベース化進行中	井上 晋
宮崎演習林植物さく葉標本・材鑑標本	719	データベース化進行中	井上 晋
北海道植物さく葉標本・昆虫標本	736	データベース化進行中	
魚類標本	1,020		松井 誠一
(小計)	5,577,474		
<b>全学合計</b>	<b>7,426,346</b>		

表2. 九州大学所蔵標本調査第2回アンケート結果

標本・資料等の種類あるいは名称	乾燥標本		液浸標本	
	整理済	未整理	整理済	液浸標本
<b>人文科学研究院</b>				
考古遺物	1,045	4,585	0	0
(小計)	1,045	4,585	0	0
<b>比較社会文化研究院</b>				
昆虫標本	45,000	800,000	50	2,000
地質学標本	9,381	5,000	0	0
人骨標本	3,200	200	0	0
旧玉泉館収蔵考古資料	5,600	400	0	0
(小計)	63,181	805,600	50	2,000
<b>理学研究院</b>				
植物標本 (福岡植物研究会標本を含む)	8,000	50,000	0	0
地質標本	22,750	4,550	0	0
夾炭層標本	2,000	0	5	0
岩石標本	11,700	0	0	0
アフリカ及びチベット海外学術調査資料	50	2,450	0	0
鉱物標本	39,000	2,700	0	0
鉱石標本	14,700	0	0	0
化石標本	71,100	14,000	0	0
深海底熱水試料	0	0	5	25
環太平洋地磁気ネットワークデータ	54	0	0	0
(小計)	169,354	73,700	10	25
<b>医学研究院</b>				
法医学、犯罪学、人類遺伝学関係標本	10	0	10	0
人体及び動物の解剖模型標本	0	139	0	0
(小計)	10	139	10	0
<b>工学研究院</b>				
資源工学及び材料工学関連標本	2,433	0	0	0
(小計)	2,433	0	0	0
<b>システム情報科学研究院</b>				
機械翻訳実験機KT-1	1	0	0	0
(小計)	1	0	0	0
<b>農学研究院</b>				
魚類標本 (内田コレクション)	0	0	30,000	700,000
魚類標本 (水産生物環境)	0	0	0	100
昆虫標本	3,000,000	1,000,000	10,000	20,000
南洋植物さく葉標本 (金平コレクション)	17,040	0	0	0
植物標本 (中島コレクション)	7,000	1,300	0	0
植物標本 (植物生産生理)	10,000	0	0	0
宮崎演習林植物さく葉標本・材鑑標本	331	0	5	0
海藻類押し葉標本	2,000	3,000	0	0
イネの遺伝子資源 (実験系統種子)	1,373	3,000	0	0
在来農具	0	100	0	0
(小計)	3,037,744	1,007,400	40,005	720,100
<b>全学合計</b>	<b>3,273,768</b>	<b>1,891,424</b>	<b>40,075</b>	<b>722,125</b>

本アンケート調査は11月5日に開かれました第1回資料部主任会議で行うことが要望されたもので、総合研究博物館が元岡地区に移転し博物館の建物ができ次第、現在管理されている部局が博物館での収蔵を希望される標本について行っています。ここにあげられていない標本につきましてもさらに調査を行い、移転に際しできるだけ適切な資料の収蔵ができるように努めていきたいと考えています。

## 5-2. 所蔵標本データベース

Web展示「高壮吉鉱物標本」をホームページに掲載（2000年11月15日）

佐々治コレクションホロタイプデータベースの公開（2002年4月1日）

所蔵標本「九州大学の記録史料（古地図・絵図・写真）」をHP上に公開（2002年9月18日）

所蔵標本「九州大学昆虫標本」をHP上に公開（2003年12月1日）

所蔵標本「九州大学の鉱山史料」をHP上に公開（2004年2月5日）

日本産ゾウムシデータベースの公開（2004年3月31日）

## 5-3. 出版・印刷

九州大学総合研究博物館ニュース（NO.1）を発行（2000年12月）

総合研究博物館公開展示図録「石炭・金・地熱 -九州の地下資源-」（2001年12月）

九州大学総合研究博物館ニュース（NO.2）を発行（2002年6月）

九州大学総合研究博物館研究報告（第1号）を発行（2003年3月）

九州大学総合研究博物館ニュース（NO.3）を発行（2004年2月）

九州大学総合研究博物館研究報告（第2号）を発行（2004年3月）

九州大学総合研究博物館年報（第1号）を発行（2004年3月）

## 6. 新聞等による報道

◎九州の地で面白さ追求 博物館の基礎固める 今春退職の教授に聞く 湯川淳一教授（昆虫学）  
（朝日新聞，2003/3/13）

◎ウエスト 変わる大学 九大は今 お宝市民に公開 新キャンパスに「博物館」構想 膨大な資料  
一元管理へ（朝日新聞，2003/3/7）

◎隕石で解く太陽系の謎 最新の研究講演で紹介 九大の総合研究博物館で（朝日新聞，2003/2/14）

◎火星いん石 九大が公開 南極で採取 水の痕跡示す 14日太陽系考える講座 総合研究博物館  
（西日本新聞，2003/2/5）

◎総合研究博物館公開講演会「地球外物質に太陽系の起源を求めて」開催（日経，西日本新聞，  
2003/1/31）

◎九州大は統合記念展「あれもこれも芸術工学！？」31日まで（西日本新聞，2003/10/3）

◎川と海の世界生命展 川や海の生物20種類を展示 総合研究博物館（西日本 8/17）

◎川と海の世界生命展開催の案内（西日本新聞，2003/8/15）

◎九州大学博物館 教育と研究の最前線一般公開（西日本新聞，2003/6/1）

◎「Mac People」3月15日号に、小島助手が提供した写真が博物館名で掲載されました。  
（2003/3/3）

◎NHKニュースで公開講演会・公開卒業論文発表会が紹介されました。（2003/2/22）

◎福岡県東部／参加しよう大学でのイベント 最新の考古科学研究成果を講演 22日、九大（西日  
本新聞，2003/2/20）

◎大学教授と地域住民が交流 公開学習会開講へ 九大・糸島会（読売新聞，2003/1/26）

- ◎福岡県／九大と糸島地域 交流へ第一歩 教授や市町職員 公開学習会を計画 26日から「地域再発見」テーマ（西日本新聞，2003/1/21）
- ◎ふくおかスポット／＝福岡タウン情報＝ 九大所蔵の標本を展示（佐賀新聞，2002/10/11）
- ◎NHKテレビ「知っとお？福岡」で九州大学所蔵標本・資料展が紹介されました。岩永教授が出演（2002/10/7）
- ◎ふくおかスポット／＝福岡タウン情報＝ 植物をもっと知ろう（佐賀新聞，2002/8/30）
- ◎RKBテレビ「夕方どんどん」で植物・昆虫同定会が紹介されました。（2002/8/28）
- ◎NHKテレビ「おっしょい福岡」で植物・昆虫同定会が紹介されました。小島助手ほか出演（2002/8/28）
- ◎福岡県／植物の生態や利用法紹介 少年科学文化会館で展示会（西日本新聞，2002/8/17）
- ◎植物もっと知ろう きょうから福岡市で企画展 性質などパネルで説明 九大（朝日新聞，2002/8/16）
- ◎RKBテレビ「夕方どんどん」掲示板コーナーで公開展示が紹介されました。三島助手ほか出演（2002/8/15）
- ◎福岡県／植物標本講座参加者を募集 九大総合博物館（西日本新聞，2002/7/30）
- ◎研究案内 総合研究博物館特別展示「昆虫展：進化の舞台の主演と脇役」（九州大学研究紹介，2002/3）
- ◎研究案内 青銅利器儀器化の比較研究（九州大学研究紹介，2002/3）
- ◎九州大通り／九州大学総合研究博物館 特別展示「九州大学教育・研究の最前線」（西日本新聞，2002/6/4）
- ◎福岡県東部／九大の技術一堂に がん治療や顕微鏡開発 箱崎で研究最前線展 担当者が直接解説も（西日本新聞，2002/6/1）
- ◎遊・週末スポット／九州大学所蔵標本・資料展 6月7日まで、福岡市東区 小島弘昭さん 屈指の昆虫コレクション（西日本新聞，2002/5/30）
- ◎2001年の昆虫界をふりかえって-Web展示・データベース紹介-(「月刊むし」，2002年5月号(375号) p 54)
- ◎福岡都市圏／研究の成果見せます 卒論をパネルで展示 九大農学部（西日本新聞，2001/2/24）
- ◎福岡都市圏／人・交差点 湯川淳一館長（西日本新聞，2001/2/23）-スクラップ画像をご覧ください。
- ◎福岡都市圏／金鉱石などの標本公開 九大総合研究博物館所蔵品（毎日新聞，2002/1/14）
- ◎ふくおか県総合／金鉱石、「松岩」…九州の地下資源 九大所蔵の標本紹介 福岡市博物館（西日本新聞，2001/12/23）
- ◎ふくおかスポット／＝福岡タウン情報＝ 九州の地下資源を展示（佐賀新聞，2001/12/21）
- ◎福岡地区／九州大学で開催されるイベント（フクオカサイエンスマンス2001年イベントガイド，2001/11）
- ◎NEWS 大学の動き／九州の地下資源 展示はじまる（九大広報21号，2001/11）
- ◎九州大通り・本日限定 地球惑星科学への招待-地球の過去・現在・未来を見つめて（西日本新聞，

2001/9/4)

- ◎情報王・展覧会から＝地球の「不思議」ずらり 特別展「地球惑星科学への招待」九州大学記念講堂（西日本新聞，2001/8/23）
- ◎福岡県／短信＝地球惑星科学への招待-地球の過去・現在・未来を見つめて／南部（西日本新聞，2001/8/18）
- ◎告知板 総合研究博物館特別展示（九大広報19号，2001/8）
- ◎NEWS 大学の動き -地球を見つめる-（九大広報19号，2001/8）
- ◎地球の「不思議」ずらり -九大記念講堂 特別展が開幕-（西日本新聞，2001/7/17）
- ◎学内博物館が続々・国立大学に眠る「お宝」再発掘 -九大の場合-（朝日新聞，2001/5/27）
- ◎アプローチ九州文化 九州大学「昆虫展」（日本経済新聞，2001/5/17）
- ◎平成12年度に改編された組織の紹介 九州大学総合研究博物館の新設（九州大学研究紹介，2001/3）
- ◎研究案内 日本の海棲軟体動物相の形成過程と種分化機構（九州大学研究紹介，2001/3）
- ◎昆虫の標本5000種・県内の絶滅危惧種も紹介 九大の博物館（読売新聞，2001/3/20）
- ◎九大で19日から昆虫展（西日本新聞，2001/3/27）
- ◎小さなミュージアム・九州コレクション紀行(46) 九州大学総合研究博物館（西日本新聞，2001/2/28）
- ◎21世紀の博物館へ(5) -IT活用 情報共有で研究加速（西日本新聞，2000/12/17）
- ◎トピックス・新たにオープンした総合研究博物館（九大広報14号，2000/9）
- ◎【文化】湯川淳一・九州大学総合研究博物館開設に寄せて（朝日新聞，2000/8/5）
- ◎【文化短信】九大総合研究博物館公開展示（西日本新聞，2000/5/15）
- ◎九大に博物館，来年度設置へ（朝日新聞，1999/10/5）
- ◎九大が「研究博物館」（西日本新聞，1999/9/22）
- ◎寄生虫研究を分かりやすくー九大医学部が「寄生虫学の展開と医の文化」を開催（毎日新聞，1999/6/23）
- ◎【春秋】「ユニバーシティ・ミュージアム（大学博物館）」（西日本新聞，1998/10/29）
- ◎九大新キャンパス造成基本計画 九大に博物館 国立博物館と連携へー新キャンパスに設置検討 学術資料を500万点展示（西日本新聞，1998/10/28）
- ◎「雲仙普賢岳の噴火とその背景」展（読売新聞，1998/6/11）
- ◎普賢岳の全容紹介ー九大主催し一般公開（毎日・読売新聞，1998/6/12）
- ◎普賢岳研究の成果など公開ー福岡市で九大（西日本新聞，1998/6/17）

## IV. 教官の研究活動

岩永 省三 (いわなが しょうぞう)

Shozo IWANAGA

### <研究の紹介>

日本の弥生時代と7・8世紀の社会を主要な研究対象としている。弥生文化の特性とその成因を、青銅器とくに武器形品を中心素材として解明した。青銅器が社会の中で果たした機能とその変化、とくに青銅武器が武器形祭器に変化した原因について、社会の変化と関連付けながら考察し、青銅武器が儀器化の兆しを見せながら結局祭器に変質はしなかった南部朝鮮との比較検討を行なった。青銅器の機能変化と土器・装身具類など他の文化要素の時間的変化との連動関係を検討する事によって、青銅器の変化の背後にある習俗・祭祀の変質、ひいては社会組織・政治組織の変容の解明をも試みた。青銅器の主要分布圏たる西日本の内部で、社会の発展の不均等がどの程度あったのかについて、青銅器生産開始時期の地域差の有無の検討を通して考察した。弥生時代の土器の様式構造について変化とその原因の一端を明らかにした。弥生時代以降の国家形成過程の解明も研究課題としており、基礎作業として国家形成の理論的検討、具体的には史的唯物論的古典学説の有効性、専制国家概念、国家に先行する社会の段階設定、前国家段階から国家への転化の条件、過渡期の理論的取り扱い、などについて検討した。さらに古代国家形成に決定的影響を及ぼした7世紀後半から8世紀初頭の対外関係の様相について、都市構造の変化や仏教美術様式の時間的変化を素材とする検討も行なった。

### <所属学会>

日本考古学協会、日本文化財科学会、考古学研究会、九州考古学会

### <研究資金>

基盤研究(c) (1997-2000年度：代表) 「集落・墓地・祭祀・土器から見た弥生時代から古墳時代への移行過程の研究」

基盤研究(c) (2001-2004年度：代表) 「集落・墓地・祭祀・土器から見た弥生時代社会の変容過程の研究」

九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト (2001-2003年度：分担) 「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」

### <海外渡航>

2000. 1. 15 「青銅器儀器化の比較研究-韓国と日本-」と題して口頭発表。科学研究費基盤研究A(2) 「日韓古代における埋葬法の比較研究」による研究成果発表会 (韓国国立光州博物館)

2000. 7. 19 「青銅器儀器化の比較研究-韓と倭-」と題して口頭発表。嶺南考古学会・九州考古学会合同学会 (韓国東亜大学校石堂ホール)

2003. 8. 20-8. 23 韓国で百済関係遺跡・遺物の調査を行った。
2003. 9. 16-9. 22 イギリスで新石器時代～初期鉄器時代の遺跡・遺物の調査を行った。
2003. 12. 10-12. 12 韓国で国立博物館の施設・所蔵資料等の調査を行った。
2003. 12. 23-12. 28 フランスで新石器時代～初期鉄器時代の遺物の調査を行った。
2004. 1. 9-1. 12 韓国で青銅器儀器化過程の調査を行った。

#### <研究業績>

##### 原著論文

- (1) 岩永省三 2003 「武器形青銅器の型式学」『考古資料大観』第6巻, 小学館, 東京. pp. 242-252.
- (2) 岩永省三 2003 「頭塔の系譜と造立事情」『論集 東大寺の歴史と教学』東大寺, 奈良. pp. 78-99.
- (3) 岩永省三 2003 「古墳時代親族構造論と古代国家形成過程」『九州大学総合研究博物館報告』第1号, 福岡. pp. 1-39.
- (4) 岩永省三 2002 「奈良時代庭園の造形意匠」『古代庭園の思想\_神仙世界への憧憬』角川書店, 東京. pp. 93-131.
- (5) 岩永省三 2002 「行基と頭塔に接点はあるか」『行基の考古学』塙書房, 東京. pp. 21-34.
- (6) 岩永省三 2002 「青銅武器儀器化の比較研究-韓と倭-」『韓半島考古学論叢』すずさわ書店, 東京. pp. 203-234.
- (7) 岩永省三 2002 「階級社会への道への路」『古代を考える 稲・金属・戦争』吉川弘文館, 東京. pp. 261-282.
- (8) 岩永省三 2001 「考古学から見た青銅器の科学分析」『考古学ジャーナル』470, ニュー・サイエンス社, 東京. pp. 18-21.
- (9) 岩永省三 2000 「青銅武器儀器化の比較研究-韓と倭-」『考古学から見た弁・辰韓と倭』九州考古学会・嶺南考古学会. pp. 109-127.
- (10) 岩永省三 2000 「青銅武器儀器化の比較研究-韓国と日本-」『日韓古代における埋葬法の比較研究』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 4-21.

##### 遺構・遺跡調査報告等

- (1) 岩永省三 2002 「木製品」『山田寺発掘調査報告』奈良文化財研究所, 奈良. pp. 358-369.
- (2) 岩永省三 2001 「第IV章 遺構1・2・3」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 28-65.
- (3) 岩永省三 2001 「六角屋蓋石塔」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 93.
- (4) 岩永省三 2001 「瓦埴類」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 68-75.

##### その他

- (1) 岩永省三 2004 「周辺における国家形成, 親族と儀礼」『シンポジウム東アジア社会の基層予稿集』pp. 32-34.

- (2) 岩永省三 2003 「考古学者から見た弥生青銅器の科学分析」『第18回大学と科学公開シンポジウム予稿集 科学が解き明かす古代の歴史—新世紀の考古科学—』pp. 38-39.
- (3) 岩永省三 2002 「再考考古学 中 弥生に都市はあったか」, 2002年11月22日付け『毎日新聞』文化欄
- (4) 岩永省三ほか 2002 「座談会 都市の起源(月)東・東南・南アジア地域 都市の王権と宇宙論」『建築雑誌』VOL. 117 NO. 1488 pp. 19-25.
- (5) 岩永省三 2002 「鑄掛け、石鍋、印、戈、階級・階層、蓋弓帽、開通元宝・開元通宝、貝輪、貨泉、家族、貨布、金印、国・国家、交換・交易、神籠石論争、氏族・部族・種族・民族、珥瑱、車輿具、小銅鐸、生産、石人石馬、舌、石戈、石劍、塞杆、鐸、多鈕細文鏡、鈕、朝鮮式山城、把頭飾、角形銅器、鉄戈、鉄鐸、鉄矛、伝世、銅戈、銅劍、銅鐸、銅鐸形土製品、銅矛、巴形銅器、武器形祭器、分業・専業、矛、無文土器、明刀錢」『三省堂考古学事典』. 三省堂, 東京.
- (6) 岩永省三 2001 「考察 凝灰岩製六角屋蓋石塔の復原」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 174-181.
- (7) 岩永省三 2001 「考察 仏塔としての頭塔の系譜」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 164-173.
- (8) 岩永省三 2001 「考察 頭塔造立の構想と事情」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 155-163.
- (9) 岩永省三 2001 「考察 屋瓦」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 126-140
- (10) 岩永省三 2001 「考察 頭塔の構造と復原」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 111-121.
- (11) 岩永省三 2001 「遺構変遷と年代」『史跡頭塔発掘調査報告』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 107-110.
- (12) 岩永省三 2000 「青銅器祭祀の終わり」『古墳発生前後の社会像』九州古文化研究会, 北九州. pp. 123-134.
- (13) 岩永省三 2000 「武器形祭器の諸問題」『信仰遺跡調査課程』奈良国立文化財研究所, 奈良. pp. 20-43.
- (14) 岩永省三 2000 「弥生時代の型\_銅製品」『型からひもとく歴史像-弥生・古墳・歴史』泉南市教育委員会, 泉南. pp. 2-25.

# 中牟田 義博 (なかむた よしひろ) Yoshihiro NAKAMUTA

## <研究の紹介>

研究業績に示すように、これまで、粘土鉱物と沸石の結晶化学的研究、X線粉末法による鉱物組成の定量法の開発、湖底堆積物の鉱物組成から見た古環境の研究、X線粉末法による極微小結晶の精密解析法の開発などを行ってきた。この中、粉末X線回折法による極微小結晶の精密解析法の開発は世界に先駆けて行ったもので、10–100  $\mu\text{m}$ 大(十数 $\mu\text{g}$ )の試料から粉末X線回折計(ディフラクトメータ)に匹敵する精度の粉末X線回折データを得ることができる。本手法の応用範囲は広く、現在、本手法を用いた以下のような研究を行っている。

- (1) 隕石中に含まれる長石の結晶構造から隕石の生成温度を推定し、それを基に太陽系形成初期における惑星の進化過程を明らかにする。
- (2) 隕石中に含まれる炭素鉱物の構造を明らかにすることにより、隕石中に生成したダイヤモンドの生成メカニズムや生成条件を解明する(原著論文(6)など)。
- (3) 惑星形成期に盛んに起こったと考えられる惑星同士の衝突の強さを、隕石中のかんらん石の格子歪みから定量的に評価する手法を確立し、惑星の衝突が惑星進化に及ぼした役割を解明する。
- (4) 装飾古墳などの考古遺跡に使用されている鉱物顔料の性質を明らかにし、各遺跡間の比較を行うことにより古代における顔料の交易ルートなどを解明する(原著論文(3))。本研究は考古の専門家との共同研究として行っているものである。

## <所属学会>

日本鉱物学会(1992–2003年度:編集委員, 2002–2004年度:評議員)、日本結晶学会  
アメリカ鉱物学会、国際隕石学会、日本粘土学会

## <研究資金>

九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト(2001–2003年度:分担)「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」

## <委嘱>

1995年6月–2001年3月 長崎県客員研究員(長崎県窯業技術センター)

## <研究業績>

### 原著論文

- (1) Y. Takechi, I. Kusachi, Y. Nakamuta and K. Kase, 2003. Talnakhite associated with andradite skarn at Fuka, Okayama Prefecture, Japan. *Resource Geology*, 53: 227–232.
- (2) Y. Nakamuta, T. Nakamura and T. Sekine, 2003. The lattice strain of olivine in experimentally shocked chondrites. *Meteoritics & Planet. Sci.* 38: A29.

- (3) 中牟田義博・三木孝・朽津信明, 2002. ガンドルフィカメラによる装飾古墳緑色顔料の検討. 岩石鉱物科学 31: 330-333.
- (4) Y. Nakamuta and Y. Aoki, 2001. Catalytic high pressure formation of diamond in ureilites. Meteoritics & Planet. Sci. 36, A146.
- (5) Nakamura T., Noguchi T., Yada T., Nakamuta Y. and Takaoka N., 2001. Bulk mineralogy of individual micrometeorites determined by X-ray diffraction analysis and transmission electron microscopy. Geochim. Cosmochim. Acta, 65: 4385-4397.
- (6) Nakamuta Y. and Aoki Y., 2000. Mineralogical evidence for the origin of diamond in ureilites. Meteoritics & Planet. Sci. 35: 487-493.

#### 著 書

- (1) 中牟田義博, 2002. ガンドルフィカメラはこんなに便利. In 粉末X線解析の実際 (中井泉・泉富士夫編著), 朝倉書店.

松隈 明彦 (まつくま あきひこ)  
Akihiko MATSUKUMA

<研究の紹介>

近年、古生物学においては化石生物の種を個体変異を伴う多様性のある個体で構成される交配集団と捉え、形態や、習性、生活様式の多様性の表われるメカニズムと進化上の意義を議論する研究が急速に勢力をましてきた。私は、これまで一貫して化石を地質時代に生きた生物として取り扱う生物学的古生物学(Paleobiology)、特に化石および現生生物の形態、構造、習性の多様性と進化パターンの研究に携わり、個体群中の量的変異の客観的表現方法に関する研究、軟体動物門二枚貝綱の多様性、種分化の様式と要因、生物地理に関する研究、インド-太平洋の新生代軟体動物相の起源に関する研究、生痕化石に関する研究、化石を用いた遺伝的多型現象の研究等を行って来た。これらの研究とともに、化石化に伴う軟体動物の硬質部の色素の変化と古生物学への応用、靱帯の組成・構造に基づく二枚貝綱の系統の推定等の研究を推進して行く。

<所属学会>

日本古生物学会, 日本地質学会

日本貝類学会 (評議員1992. 1. 1-、編集委員1992. 1. 1-2002. 12. 31、副会長2001. 1. 1-2002. 12. 31, 2003. 1. 1-2004. 12. 31)

日本ベントス学会

Western Society of Malacologists (アメリカ)

<学外委員等>

福岡県糸島郡二丈町町誌編集委員会 (2003-2005: 副委員長)

Zoosystema (フランス: 評議員1998-, 編集委員1998-)

The Yuriyagai (編集委員1998-)

<海外渡航>

2001. 1. 11. -1. 31 タイ (二枚貝分類学講座、日本学術振興会)

2001. 7. 1-8. 31 Museum National d'Histoire Naturelle, Paris (インド-西太平洋産二枚貝の分類学的研究、フランス政府招聘教授)

2002. 7. 1-8. 31 Museum National d'Histoire Naturelle, Paris (インド-西太平洋産二枚貝の分類学的研究、フランス政府招聘教授)

2002. 12. 21-12. 28 タイ (海洋生物学研究センター標本調査, 京都大学)

2003. 12. 21-12. 28 タイ (海洋生物学研究センター標本調査, 委任経理金)

<研究資金>

委任経理金「海洋生物研究資金」株式会社ティーティーシー (東京) 2000-2003年度 各年度50万円

九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト（2001-2003年度：代表）「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」

#### <研究業績>

##### 原著論文

- (1) Matsukuma, A., 2004. 77 Additional marine bivalve species from Wakayama Prefecture - a Supplement to A Catalogue of Molluscs of Wakayama Prefecture, the Province of Kii by T. Habe. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. Spec. Publ. Ser., 7: 9-51, pls. 2-8.
- (2) 松隈明彦, 2003. インド-西大平洋産トゲウネガイ属(ニッコウガイ科). ひたちおび, 91号: 6-10.
- (3) Matsukuma, A., Paulay, G. & Hamada, N., 2003. *Chama cerion* n. sp., a new chamid bivalve (Mollusca) from the Indo-Pacific Ocean. *Venus*, 62(2): 19-27.
- (4) Tuaycharoen, S. & Matsukuma, A., 2001. Razor clams (Bivalvia: Solenidae) from the east and west coasts of Thailand. Proceedings of the 11th International Tropical Marine Molluscs Program 28 Sept.-08 Oct. 2000, Tamilnadu, India; Bull. Phuket Mar. Biol. Center, 25(2): 377-386.
- (5) Yoosukh, W. & Matsukuma, A., 2001. Taxonomic study on *Meretrix* (Mollusca: Bivalvia) from Thailand. Proceedings of the 11th International Tropical Marine Molluscs Program 28 Sept.-08 Oct. 2000, Tamilnadu, India; Bull. Phuket Mar. Biol. Center, Spec. Publ., 25(2): 451-460, pls. 1-5.
- (6) 松隈明彦, 2001. 日本産バカガイ科数種の命名者について. *ちりぼたん*, 32(1-2): 5-9.

##### 総説

- (1) 松隈明彦, 2002. 脅かされるパラダイス. *ダジアン*, no. 41: 29.

##### 要旨・報告書

- (1) 松隈明彦・浜田直人・Gustav Paulay, 2001. 太平洋産キクザルガイ科二枚貝の2新種. *Venus*, 60(1-2): 109.
- (2) 松隈明彦・澄川精吾・本多庚午, 2000. 福岡県希少野性生物調査(陸淡水貝類). *Venus*, 59(1): 61.

##### 著書

- (1) 松隈明彦・木下尚子・濱田直人, 2003. 第13節 アバクチ洞穴の貝珠. In 百々幸雄・瀧川渉・澤田純明(編): 北上山地に日本更新世人類化石を探る - 岩手県大迫町アバクチ・風穴洞穴遺跡の発掘 -, pp. 252-264, 東北大学出版会.
- (2) 松隈明彦, 2001. 福岡県の自然(1) 地形と地質、陸・淡水産貝類. In 福岡県環境部自然環境課: 福岡県の希少野性生物 - 福岡県レッドデータブック2001, 口絵 xiii-xiv, pp. 12-14, 396-419.
- (3) 松隈明彦, 2000. 二枚貝綱翼形亜綱(シラスナガイモドキ科, イガイ科, ウグイスガイ目, ミノガイ目、カキ目を除く), 異歯亜綱(ケシハマグリ科、オオノガイ目を除く), In 奥谷喬司(編): 日本近海産貝類図鑑, pp. 844-861, 928-997, 1000-1019, 東海大学出版会、東京.

# 中西 哲也 (なかにし てつや)

## Tetsuya NAKANISHI

### <研究の紹介>

微量元素を分析する技術は、地球化学的試料を取り扱う際に必要不可欠な技術です。私の研究では特に誘導プラズマ質量分析装置 (ICP-MS) を用いて、岩石中のppbレベルの微量金の分析法を確立してきました。現在はこの手法を用いて、温泉型金鉱床 (浅熱水性金鉱床) の地表に形成される珪質沈殿物 (シリカシンター) 中の微量金を分析し、地下における金鉱化作用との関わりを調べています。国内に産する主なシリカシンターや米国イエローストーンその他、オーストラリア、フィリピン、カムチャッカなどで試料の採取を行ってきました。

この他に最近では文部省特定領域研究「江戸のモノづくり」の計画研究班として「日本の鉱山技術資料の総合的調査と総合目録の作成」の研究を進めています。具体的には、日本各地に点在する鉱山技術関連の古文書や道具の所在調査を行うと共に、古文書に記述されている技術と実際に使われた技術の対比や、鉱床学的な立場から江戸時代の鉱山の技術レベルの検証を行ってゆきます。特に当時採掘の対象であった鉱石と様々な金属 (金・銀・銅・鉛・鉄) を取り出すための製錬の技術を、記録に頼るだけではなく、実際の鉱石や鉱滓・廃滓の分析を行うことで、科学的に検証を行っています。

### <所属学会>

資源地質学会 (2002-2004年度: 評議員)、日本鉱業史研究会

### <研究資金>

特定領域研究(A) (2002-2005年度: 代表) 「日本の鉱山技術資料の総合的調査と総合目録の作成」  
NEDO産業技術研究助成事業費助成金 (2001-2002年度: 分担) 「新しい減容成形機を用いた廃自動車シュレッダーダストの固形燃料製造システムの開発」  
基盤研究(A) (2) (1998-2001年度: 分担) 「シリカと微生物を用いた地球表層水中のアルミニウムの制御に関する研究」  
基盤研究(A) (2) (1998-2001年度: 分担) 「マグマ熱水系の鉱化ポテンシャル評価に関する研究」

### <研究業績>

#### 原著論文

- (1) Nakanishi, T., Izawa, E. & Watanabe, K., 2003. Mineralogical and Geochemical characteristics of Siliceous Sinter in Japan. Proceedings of The 25th New Zealand Geothermal Workshop, pp.155-160.
- (2) 中西哲也・井澤英二・吉川竜太, 2003. 蛍光X線分析法による銅鉱石と製錬滓の分析-長登銅山と都茂丸山銅山の例-, 江戸のモノ作り第3回国際シンポジウム(長浜)予稿集, pp.121-124.
- (4) Belhadi, A., Nakanishi, T., Watanabe, K. & Izawa, E., 2002. Gold mineralization and occurrence of sinter in the Hoshino area, Fukuoka Prefecture, Japan. Resource Geology,

52(4): 371-380.

- (3) 井澤英二・中西哲也・吉川竜太, 2003. 山口県長登銅山地域の地質と鉱床: 特に硫化銅鉱と炭酸銅鉱の関係について. 資源・素材2003(宇部)予稿集(鉱業史), pp. 7-10.
- (5) Nakanishi, T., Taguchi, S., Watanabe, K. & Izawa, E., 2001. Occurrence and Structure of the Ikiryu Sinter, Kuju Volcanic Region, North-Central Kyushu, Japan. Society of Economic Geologists Guidebook Series, 34: 181-186.

宮崎 克則 (みやざき かつのり)  
Katsunori MIYAZAKI

<研究の紹介>

江戸時代の日本史を専門とする。文献史料・口頭伝承・記念碑などを利用し、近世日本における民衆社会（祭礼・生活・運動）を研究する。最近では日本のみならず、イギリス・フランスとも比較し、前近代における民衆世界を再検討する。また、研究の基礎となる記録史料をはじめ、植物・昆虫・岩石などの標本目録データの検索システムを開発している。

<所属学会>

日本歴史学会、日本史研究会、明治維新史学会、九州史学研究会

<研究資金>

特定領域研究(A) (2002-2005年度：分担) 「日本の鉱山技術資料の総合的調査と総合目録の作成」

基盤研究(C) (2) (1999-2001年度：分担) 「近世、西国における在郷商人に関する総合研究」

基盤研究(C) (2) (1997-2001年度：代表) 「祭礼にみる幕末維新期の民衆像」

九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト (2001-2003年度：分担) 「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」

<研究業績>

原著論文

(1) 宮崎克則 2002 「会議を開く庄屋たち」 『九州史学』 130号, pp. 1-15.

(2) 宮崎克則 2001 「豪商石本家と人吉藩の取引関係」 『九州文化史研究所紀要』 45号, pp. 1-52.

著書

(1) 宮崎克則 2002 『逃げる百姓、追う大名』 中央公論新社. pp. 1-212.

自治体史

(1) 宮崎克則 2001 新版『鎮西町史』上巻 佐賀県東松浦郡鎮西町発行. pp. 583-793.

(2) 宮崎克則 2001 『川崎町史』上巻 福岡県田川郡川崎町発行. pp. 261-304, pp. 408-434.

報告 (史料目録・史料集)

(1) 宮崎克則 2002 「九大が所蔵する記録史料の状態と活用 1-竹田文庫」 『図書館情報』 38-1号, pp. 3-4.

(2) 宮崎克則 2002 「九大が所蔵する記録史料の状態と活用 2-シーボルト『日本』その1」 『図書館情報』 38-2号 pp. 3-4.

(3) 宮崎克則 2002 『玄海町文化財調査報告書9集 松隈家文書目録』 佐賀県東松浦郡玄海町教育委員

会発行. pp. 1-151.

(4)宮崎克則 2001『寛政5年～文政4年 久留米藩大庄屋会議録』九州文化史研究所史料集刊行会発行. pp. 1-248.

(5)宮崎克則 2001 『玄海町文化財調査報告書8集 山村家文書目録』佐賀県東松浦郡玄海町教育委員会発行. pp. 1-20.

(6)宮崎克則 2000 『福岡藩糟屋郡 大庄屋留書』九州文化史研究所史料集刊行会発行. pp. 1-251.

# 小島 弘昭 (こじま ひろあき)

## Hiroaki KOJIMA

### <研究の紹介>

生物界で最大の分類単位と言われるゾウムシ科を含むゾウムシ上科を材料に、分類をベースとした、総合的自然史研究を行っている。現在知られているだけでも6万種、推定種数は少なく見積もって20万種以上とも言われる、膨大な種数を含むゾウムシ類について、イギリス、ドイツ、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど世界各地の研究者と連携し、世界のゾウムシ相を解明しようという、21世紀の多様性生物学、あるいは分類学最大のチャレンジテーマに取り組んでいる。私の担当は、主にアジア-太平洋地域であるが、高次レベルでの関係を調べる際などは、世界的視野に立った材料の検討も行っている。また、ゾウムシ類は植食性の甲虫で、植物と密接に関係しながら進化してきたグループで、ゾウムシ-植物の相互関係にも深い関心を持ちつつ研究を進めている。

アジア地域の材料を主に研究していることと、大きな分類群を扱っていることから、日華系生物群の起源や林冠昆虫相の多様性にも興味を持っており、とくに林冠研究については、昆虫相解明に向けたプロジェクトを近年スタートさせた。

大学博物館では、情報関連の研究系に所属しており、研究のサブワークとして、データベース化などにも取り組んでいる。また、これまでの分類学の成果は、特定の研究者にしか使いづらいという話も聞かれるので、近年の情報関係の技術を導入し、誰にでも使い易い、分類学的業績の出版形態なども模索中である。

### <所属学会>

日本昆虫学会 (編集委員2002-)、日本鞘翅学会 (非常任幹事2002-)

日本ゾウムシ情報ネットワーク (幹事2002-)、The Coleopterists Society (USA)

### <研究資金> (代表研究のみ)

科学研究費若手研究B (2001-2002年度: 代表) 「高等ゾウムシの系統進化と被子植物との関係」

(財)九州大学後援会研究助成 (2003年度: 代表) 「日本における樹冠部昆虫相研究の開拓と多様性保全生物学への活用」

### <研究業績>

#### 原著論文

- (1) Kojima, H. & K. Morimoto, 2004. An online checklist and database of the Japanese weevils (Insecta: Coleoptera: Curculionoidea) (excepting Scolytidae and Platypodidae). Bulletin of the Kyushu University Museum, 2: 33-147.
- (2) Morimoto, K. & H. Kojima, 2004. Systematic position of the tribe Phylloplatypodini, with remarks on the definitions of the families Scolytidae, Platypodidae, Dryophthoridae and Curculionidae (Coleoptera: Curculionoidea). Esakia, 44: 153-168.

- (3)Kojima, H., K. Morimoto & K. Yoshihara, 2004. Systematic position of the genus *Keibaris* Chujo, with notes on the definitions of the related taxa having the ascended mesepimera (Coleoptera: Curculionidae). *Esakia*, 44: 169-182.
- (4)小島弘昭, 2004ゾウムシ上科の系統分類学概説[Recent review of weevil systematics]. *昆虫と自然*, 39(4): 22-26.
- (5)Morimoto, K. & H. Kojima, 2003. Morphologic characters of the weevil head and phylogenetic implications (Coleoptera, Curculionoidea). *Esakia*, 43: 133-169.
- (6)Morimoto, K. & H. Kojima, 2003. *Satozo*, a new genus of the Celeuthetini (Coleoptera, Curculionidae) from Minami-Iwojima Is., Japan. *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, 6, 397-403.
- (7)Kojima, H. & K. Morimoto, 2003. Notes on the apterous weevil genus *Pinacopus* Marshall (Coleoptera, Curculionidae, Molytinae). *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, 6: 405-413.
- (8)Morimoto, K. & H. Kojima, 2003. Synonymic and faunistic notes on some weevils in Japan (Coleoptera, Curculionoidea). *Entomological Review of Japan*, 58: 53-66.
- (9)Kojima, H. 2003. Present and future of insect systematics in Asia. Korea-Japan joint conference on applied entomology and zoology, 2003, pp. 44-45.
- (10)小島 弘昭, 2003. 大学博物館の現状と将来—九大総合研究博物館と分類学とのかかわり— [The status and future of university museum in Japan]. *Panmixia昆虫分類学若手懇談会会報*, 14: 3-10.
- (11)小島 弘昭, 2003. 半島マレーシアの昆虫インベントリー [Insect inventory of the Peninsular Malaysia]. *昆虫と自然*, 38(12): 23-28.
- (12)Kojima, H. & K. Morimoto, 2003. A new *Lignyodes* Dejean, a new representative of the genus and the tribe Lignyodini Bedel from the eastern Palaearctic region (Coleoptera: Curculionidae). *The Coleopterists Bulletin*, 57: 383-389.
- (13)Kojima, H. & A. B. Idris, 2003. A peculiar new species of the genus *Antinia* Pascoe (Coleoptera: Curculionidae: Entiminae) from Malaysian moss forests, with notes on the sympatric weevils and beetle of similar appearance. *Serangga*, 8(1-2): 73-82.
- (14)Kojima, H. & A. B. Idris, 2003. A peculiar sexual dimorphism of the antenna in *Katsurazo* Kojima (Coleoptera: Curculionidae). *Serangga*, 8(1-2): 83-87.
- (15)Kojima, H. & K. Morimoto, 2002. Study on the Malaysian *Pinacopus* (Coleoptera, Curculionidae, Molytinae). *Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology*, 5: 425-445.
- (16)Kojima, H. & I. Matoba, 2002. Taxonomic notes on the genus *Morimotozo* (Coleoptera: Curculionidae). *Elytra*, 30: 263-272.
- (17)Kojima, H. & C. H. C. Lyal, 2002. New Oriental and Australian Conoderinae, with Taxonomic notes on the tribe Othippiini (Coleoptera: Curculionidae). *Esakia*, 42: 161-

- (18) Kojima, H. & K. Morimoto, 2002. A new *Thamnobius*: an African weevil genus new to the Oriental Region (Coleoptera: Curculionidae; Curculioninae). *Entomological Science*, 5: 335-339.
- (19) 小島 弘昭, 森本 桂, 2002. ツブゾウムシ属 (コウチュウ目: ゾウムシ科) の分類解説 [Systematic account of the genus *Sphinxis* Roelofs (Coleoptera: Curculionidae)]. *Japanese Journal of Entomology*, (n. s.), 5: 81-87.
- (20) 小島 弘昭, 2001. 東南アジアにおけるゾウムシ類の分布と生物地理 [Distribution and biogeography of weevils in South-east Asia]. *昆虫と自然*, 36(4): 12-15.
- (21) Yoshitake, H. & H. Kojima, 2001. A new species of the genus *Coeliodes* (Coleoptera, Curculionidae, Ceutorhynchinae) from Mt. Tamdao, North Vietnam. *Elytra*, 29: 1-6.
- (22) Morimoto, K. & H. Kojima, 2001. *Isopterina*, a new subtribe of the tribe Celeuthetini, with notes on the related taxa (Coleoptera, Curculionidae). *Elytra*, 29: 265-283.
- (23) 吉武 啓, 政岡 適, 佐藤 信輔, 中島 淳, 紙谷 聡志, 湯川 淳一, 小島 弘昭, 2001. 福岡県におけるヤシオオオサゾウムシの発生とさらなる北進の可能性について [Occurrence of *Rhynchophorus ferrugineus* (Coleoptera: Dryophthoridae) on Nokonoshima Island, southern Japan and its possible invasion further north.] *九州病害虫研究会報*, 47: 145-150.
- (24) Yoshitake, H. & H. Kojima, 2001. Ceutorhynchine weevils of the genus *Coeliodes* Schoenherr (Coleoptera: Curculionidae) from Taiwan. *Entomological Science*, 4: 439-457.
- (25) 小島 弘昭, 2000. フォギング法による熱帯樹冠の昆虫相調査. [Insect survey in tropical forest canopy by knockdown insecticide fogging: an introduction] *昆虫と自然*, 35(10): 8-11.
- (26) Tokuda, M., H. Kojima & J. Yukawa, 2000. Occurrence of *Parendaesus abietinus* (Coleoptera: Curculionidae: Ochyromerini) in Kyushu, Japan and its host range. *Esakia*, (40): 37-39.
- (27) Kojima, H. & K. Morimoto, 2000. Systematics of the genus *Sphinxis* Roelofs (Coleoptera: Curculionidae). *Entomological Science*, 3: 529-556.
- (28) Kojima, H. & C. H. C. Lyal, 2000. Phylogeny and evolution of Dryophthoridae (Coleoptera: Curculionoidea). Abstract book I. XXI-International Congress of Entomology, Brazil: 916.
- (29) Kojima, H. & C. H. C. Lyal 2000. On the genera of the Oriental and Australian Conoderinae (Zygopinae auctt) (Coleoptera: Curculionidae). Abstract book I. XXI-International Congress of Entomology, Brazil: 957.

#### その他

- (1) 湯川 淳一・小島 弘昭, 2002. 総合研究博物館特別展示「昆虫展: 進化の舞台の主役と脇役」. 九州大学研究紹介, (19): 143-144.
- (2) 小島 弘昭, 2000. 新刊紹介. *Japanese Journal of Entomology* (N. S.), 3: 111-112.

# 三島 美佐子 (みしま みさこ)

## Misako MISHIMA

### <研究の紹介>

- 1) 植物の倍数性進化とその意義：植物の倍数性と種分化に興味を持ち、近年は、植物の倍数性進化の過程におけるゲノム動態の変化に注目した研究を進めてきた。これまでは、ワレモコウ属(バラ科)、Stevia 属(キク科)、シロイヌナズナ(アブラナ科)を主な材料として、細胞生物学的・分子生物学的手法を用いた解析を行ってきた。2002年着任後は、倍数化がもたらす形態変化に着目し、ホスト植物の倍数化と虫えい形状多様化との関係や、倍数化植物が虫えい形成昆虫に与える影響を調査している。
- 2) 虫えい形状多様化の機構解明：虫えいの形状は非常に多様化しており、そのような形状がどのように決定・形成され、また進化してきたのかについての確固とした定説はまだない。同一種の昆虫が同一種の植物に虫えいを形成するがその虫えい形状に多型が見られる系を用い、解剖学的観察と分子生物学的解析の両方から、虫えいの形成機構と、形状が多様化する機構を探っている。

### <所属学会>

日本進化学会、日本植物学会、日本植物分類学会、染色体学会、  
種生物学会（和文誌編集委員）、植物地理分類学会

### <研究資金>

- 科学研究費若手研究B（2003-2004年度：代表）「植物の倍数化が虫えいの形成と形態の多様化に及ぼす影響」  
九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト（2001-2003年度：分担）「アジア・太平洋博物館ネットワークの構築と自然史系博物館、文化史系博物館職員のリカレント教育に関する研究」  
九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト（2003年度-：分担）「生物多様性の保全と進化に関する研究拠点形成。」

### <研究業績>

#### 原著論文

- (1) MISHIMA, M., 2002. Cytogeography of *Sanguisorba parvifloras*.l. (Rosaceae) in Asia. In Fukui and Xin(eds.): Advances in chromosome sciences. Vol.1. Cina Agricultural Science and Technology Press.: pp. 98-100.
- (2) MISHIMA, M., OHMIDO, N., FUKUI, K. & YAHARA, T., 2002. Trends in site-number change of rDNA loci during polyploidy evolution in *Sanguisorba* (Rosaceae). Chromosoma, 110: 550-558.
- (3) MISHIMA, M., 2001. Hybridity in Primorye-is the real source of morphological variator in Japanese *Sangusorba*-. In Berkutenko et al. (eds.): Flora and climatic conditions of the North pacific (a collection of scientific papers). Magadan, Russia.: pp. 132-134.

#### その他

- (1) 三島美佐子. 2003. 「沿海州、こんなに多様でええんかい?」. 日本植物分類学会ニュースレター No. 10.: 16.

## V. 規則

### 九州大学総合研究博物館規則

#### 第一条（趣旨）

この規則は、九州大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

#### 第二条（目的）

博物館は、学内共同教育研究施設として、学術標本の収集、分析、展示・公開等及び学術標本に関する研究教育の支援並びにこれらに関する調査研究を行うとともに、学内外の研究教育活動に寄与することを目的とする。

#### 第三条（系）

博物館に、前条の目的を達成するため、次の表の左欄に掲げる系を置き、当該系の任務は、同表の右欄に定めるとおりとする。

系	任務
一次資料研究系	学術標本の調査・収集、分類・保存及びその理論・方法に関する研究と教育
分析技術開発系	学術標本の先端的分析法による新たな学術情報の抽出及びその理論・方法に関する研究と教育
開示研究系	学術標本の展示・公開のための情報のデータベース化及びその効果的な展示・公開のための理論・方法の研究と教育

#### 第四条（館長）

博物館に、九州大学総合研究博物館長（以下「館長」という。）を置き、九州大学の教授のうちから次条に規定する運営委員会の推薦により、総長が選考し、任命する。

- 2 館長は、博物館の業務を掌理する。
- 3 館長の任期は、二年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 館長は再任されることができる。ただし、引き続き再任される場合は、一回を限度とする。

#### 第五条（運営委員会）

博物館に、九州大学総合研究博物館運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次の各項に掲げる事項を審議する。
  - 一 館長の採用のための選考に関すること。
  - 二 教育公務員特別法等に定める教官人事に関すること。
  - 三 教官の研究業務に係る重要事項に関すること。
  - 四 研究員等に関すること。
  - 五 研究生等に関すること。
  - 六 博物館内の諸規則等の制定改廃に関すること。
  - 七 研究に係る自己点検・評価（外部評価を含む。）に関すること。
  - 八 その他博物館の管理運営に関すること。
- 3 前項第二号に掲げる事項のうち、教官の選考のための資格審査については、原則として、博物館の教育研究に関する部局（各学府及び各学部を除く。）の教授会において行うものとする。

#### 第六条

運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 総長が指名する副学長
- 二 館長
- 三 博物館の専任の教授及び助教授

#### 四 附属図書館長

#### 五 情報基盤センター長

六 各研究院の教授及び助教授のうちから選ばれた者 各一人

七 各附属研究所の教授及び助教授のうちから選ばれた者 各一人

八 その他運営委員会が必要と認めた者 若干人

2 前項第五号、第六号及び第七号の委員の任期は、二年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の委員は、再任されることができる。

#### 第七条

委員長は、館長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 運営委員会に、副委員長を置き、委員の互選により定める。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

#### 第八条

運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### 第九条（専門委員会）

運営委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

#### 第十条（兼任の教官）

博物館に、兼任の教官を置くことができる。

2 兼任の教官は、九州大学の教官のうちから運営委員会の推薦により、総長が任命する。

3 兼任の教官の任期は、二年とし、再任を妨げない。

#### 第十一条（事務）

博物館に関する事務は、当分の間、理学部等事務部において処理する。

#### 第十二条（雑則）

この規則に定めるもののほか、博物館の組織及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が定める。

#### 附則

1 この規則は、平成十二年四月一日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命される館長は、第四条第一項の規定により選考されたものとみなす。

3 この規則施行後最初に任命される第六条第一項第五号、第六号及び第七号の委員の任期は、同条第二項本文の規定にかかわらず、平成十四年三月三十一日までとする。

#### 附則

この規則は、平成十三年五月十八日から施行する。

# 九州大学総合研究博物館年報第1号

平成16年3月発行

発行者 九州大学総合研究博物館  
編集者

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

Phone/Fax 092-642-4252

URL <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>

印刷 株式会社伸和